

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

自己 外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念は、グループホームを施設としてではなく、「家」としての考えを根底に、カンファレンス等で共有している。又、事務所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。実践できている場面と足りない場面がある。	やすら木の家を、ご利用者様と共に笑い、泣き、喜びを分かち合う生活の場として、チームとして同じ方向性、考え、思いを共有できる様に、皆で何回も話し合って刷新した理念を決められました。理念は、ご利用者様が『私』らしく生きる。共に歩む。タイムカードの前に掲示し、毎月のカンファレンスで実践の様子を話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は地域と交流があったが、コロナ禍や共働き世帯が増加している事によって、地域との関係が希薄になっている。	コロナ禍で地域との交流が途切れ、ご近所は共働きも増えて、道を歩いても行き交う方もいない現状と伺いました。区費は収めていると伺いました。	区に入られていますので、回覧板等を活用して、イベントや行事のお知らせなどの情報提供をしたり、また認知症の専門機関としての機能の活用を期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の方への理解について、事業所内では試行錯誤しながら深めているが、その力を活かした地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様全員と協力医院様等にご案内を郵送して参加を募っている。令和6年度4月からの法改正に伴い、利用者様の口腔衛生管理も基本サービスとして行うことが義務化され、協力歯科医院様が運営推進会議にて口腔内セミナーを開催し、その内容を実践に活かしている。	運営推進会議は『やすら木の家 和の会』として、インフルエンザ蔓延時以外は、2か月に1度、対面で開催されています。日々のレクリエーション・行事場面・お誕生会、髪のリカット、事故・ヒヤリハットの報告などきめ細かな内容で、分かり易く報告がされています。協力歯科医院のセミナーも開かれました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の会議や研修に参加している。	市の主宰する研修会や会議に出席する他、リモートでの会議にも参加しています。地域包括支援センターは、運営推進会議のメンバーとして出席していただき、やすら木の家及び利用者の近況と行事の様子、ヒヤリハットの報告などをされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全体で、身体拘束をしないという意識を共有している。月に1回のカンファレンスでも身体拘束に関わる内容を話し合っている。又、玄関の施錠はしないことを基本としている。	身体拘束禁止委員会があり、国のマニュアルで学び、身体拘束をしないケアの意識を共有しています。毎月のカンファレンスで利用者様の様子を話し合い、個別の対応でケアが出来る様に工夫しています。玄関の鍵は、やむを得ない場面以外は、施錠をしていません。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について、しない、させない意識と努力をしている。学ぶ機会は持っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月「今月の私」という独自のお便りをお送りし、要望を記入していただく欄を設け、意見や要望の把握をしている。又、2か月に1度運営推進会議にて運営の状況を報告している。	家族全員に運営推進会議の通知を出しており、2名から4名の出席をいただいています。毎月、ご利用者様一人ひとりの様子をお便り『今月の私』でご家族に郵送し、ご家族からの通信欄に意見・要望などを書いていただき、把握しています。運営推進会議でも取り上げるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面談で職員の意見を聞く機会を設けている。	年2回の面談で、職員の自己評価を基にお給料や待遇、人間関係、設備面などの意見を聞く機会を設けています。年間の研修計画や介護技術の研修もなされています。産休取得、早番、日勤、遅番、夜勤など、家庭の事情も配慮され、継続して働きやすい環境になっていると職員ヒアリングで伺いました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が向上心を持って働けるようThanksカードを作成し、日々の目に見えない業務への感謝を記入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格のない職員に対して、研修を受けられる機会を確保している。又、市の無料研修に積極的に参加し、職員全体で周知するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今年度、能登から学ぶ医療・介護の連携を題材とした研修に参加し、主催者様の計らいにより、グループホーム近辺の施設様と同グループとなり、交流ができた。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の要望や不安、困っていることについて納得できるまでお話を聞くようにしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入時には耳を傾けるよう努めている。その後もその都度要望があった際には耳を傾け、出来る限り対応するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	出来る限り努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設を利用者様の生活の場＝家と捉え、暮らしを共にするという意識で信頼していただけるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	基本的には共に支えていくという意識でいるが、利用者様によって状況も違うため、出来ない方もいるのが現状。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会にも制限を設けず、ご友人の方にも面会に来ていただいている。	入居間もない頃は面会も多いので、マスク着用と検温をしていただき、その方の個室で制限を設けず面会していただいています。食べ物のお土産も、個室で召し上がっていただきます。生寿司、フルーツ等は事前にお知らせいただき、個室に残さない様をお願いしています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの生活歴や思考や相性を考慮し、利用者様が楽しく穏やかに過ごせるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	要望があれば出来る限り努めている。	

自己 外部		項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の思いは、入居時のアセスメントと口頭による方法で把握している。又、日々の支援の中で把握した思いを、申し送りや月1回のカンファレンスで共有を図っている。	日々の支援の中で声掛けをして、やり取りを連絡ノートに記入し、ADL(日常生活動作)の状態をシートに記録して、皆で共有できるようにしています。利用者様の尊厳を大切に、何かあったら申し送りで話し合い、解決するようにしています。健康に関わることはPCへ入力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントにより、生活歴やこれまでのサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、一人ひとりの現状把握に努めている。些細な事でも申し送りで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月送付している家族へのお便りから、返信されたご意見やご要望をカンファレンスで取り上げ、介護プランに反映している。医師や訪問看護師とも連携を取っている。	ご利用者様の一人ひとりの様子を、お便り『今月の私』で家族にお送りしています。返信に寄せられたご意見・ご要望から、毎月のカンファレンスで介護プランに反映しています。リハビリや排便コントロールなど、訪問看護師から医師へ相談して対応しています。	毎月のカンファレンスは、全ご利用者様について取り上げるので、お一人おひとりに十分な時間は確保できない事もあると伺いました。実践の様子を話せるカンファレンスなので、回数や時間の配慮を期待いたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「今日の私」への記録をし、毎日2回の申し送りや申し送りノートで、職員間の情報共有をしている。得た情報を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来る限り取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居と同時に、それまでの地域資源の活用をしなくなることが多い。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	6つの病院の医師が月に1回往診医として来所している。又、令和6年度より訪問歯科医院様も月に数回訪問して下さり、口腔衛生管理体制も整備している。	在宅時のかかりつけ医は、家族との関わりで継続できています。6つの病院の医師に、毎月1回の往診をしていただき、状態などや方向性も相談できています。日々の健康への相談は訪問看護師があたっています。新たに月に数回の訪問歯科も始まりました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に2回訪問看護が来所し、常に日々の健康状態を相談している。又、急変があった場合は24時間電話で相談ができ、状況に応じて訪問もして下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には日常のご様子をお伝えし、入院中も電話でご様子を伺っている。退院前には退院前カンファレンスを行うため、病院へ訪問している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居時にリビングウィル(「生前の意思」あるいは「遺言」)を記入していただいている。状況が変わった場合は都度医療機関、ご家族様とご相談し、福祉用具の購入やレンタルもしている。	本人の意思『リビングウィル(生前の意志)』と、ご家族の思いを入居時に伺っています。終末期に医療的ケアが必要な場合は入居時に同意書をいただき、入院される方もいます。車イス、歩行器は無料でレンタルしています。看取りは4件で、訪問看護師の看取り研修で、変化への心構えや処置もしていただいています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年に2回防災訓練を実施しており、春に行われた防災訓練の際にAEDの指導を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を実施しており、秋の防災訓練では夜間想定 of 防災訓練を実施した。又、今年度は災害時の医療・介護連携研修会に参加し、職員間で共有、運営推進会議でも報告して、ご家族様や医療機関との連携を議題とした。	年2回の防災訓練を実施しています。秋の夜間想定 of 訓練は、職員の会議での話し合いの他、災害時の医療・介護連携研修に出席して課題が見え、職員間で共有し、運営推進会議での議題でも報告しました。今後はご家族や医療機関との連携を図るなど、運営母体の会社の会議にも管理者が出席して報告しています。BCP(防災・感染症予防対策)の作成と研修も実施しました。	

自己 外部		項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個室であり、入浴や排泄の場面では一対一を基本に、男性対応に拒否がある利用者様等、意向に配慮しながら対応している。	ご利用者様の気持ちや羞恥心に配慮して、一対一での排泄支援や入浴支援は同性介助をしています。基本は、個室トイレで便座に座っていただくようにしています。日常生活支援では利用者様一人ひとりの尊厳を大切にしています。耳の遠い方、話しが出来ない方も、その方に合わせた関わりをしていると職員のヒアリングで伺いました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけているが、希望に沿えないこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り行っているが、職員の人員の関係や共同生活という環境下で、難しい部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみは努めているが、おしゃれの支援は出来ていない。月に2回同グループの訪問理容があり、利用者様の意向に沿い、散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お食事が楽しみになるように、日々盛り付けの工夫や食欲が湧く色彩になるよう工夫し、行事食やお誕生日の際には好みの献立を提供している。準備では野菜の下処理を行っていただくこともある。又、お食事後の食器ふきを利用者様と一緒にやっている。	献立付食材の配食サービスを利用して、食事は施設で手作りしています。昼・夕の食材を見て追加で増やすなど、季節感も加味しながら工夫しています。毎月1回の希望献立があり、行事食・お誕生日の好みの献立、パン食など、食事が楽しみになる様に、盛り付けや彩りなど、食欲がわく支援をしています。野菜の下処理や、食器拭きなどを一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援している。食事形態や量も一人ひとりの状態や、習慣に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	令和6年度の法改定に伴い、口腔衛生管理も基本サービスとなり、月に数回訪問歯科医院様が来所して下さい、利用者様一人ひとりの口腔衛生管理を行えている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の自立として、布パンツで過ごすのが困難な利用者様には、リハビリパンツを活用し、上げ下ろしに負担が掛からないように考慮している。又、排泄の失敗を減らすため、排便コントロールや、夜間はポータブルトイレを使用している。	排泄自立の支援は、基本は自室のトイレに座っていただきます。リハビリパンツやパット使用の方も個人差はありますが、日中5回ぐらい排泄支援を行い、布パンツの方も数人、自分でトイレに行かれる方もおられます。その方に応じて、待機方法も気持ちの負担にならない様に工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	午前中のお茶の時間に、お茶ゼリーを提供している。又、夕食にはヨーグルトを提供している。運動への働きかけが不足しているが、身体機能の面から見て、運動が難しい方も多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	曜日や時間帯を決めているが、ご本人の希望に合わせて柔軟に変更している。又、入浴に拒否がある利用者様には、誘い方を工夫して入浴に繋げている。	入浴は一对一で、お話をゆっくり聞けるように支援しています。入浴表はありますが、ご利用者様の希望や、訴えに合わせ、週2回を入れるように介助しています。有料ボランティアが浴室清掃に訪れています。機械浴が無いため、利用者様の負担にならない様に二人対応もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	そのように支援している。又、眠剤を飲んでいる利用者様は服薬時間を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様一人ひとりは、薬についての理解はできていない。職員は服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事手伝い、体操、カラオケ、レクリエーション、行事等の支援をしている。また、現在は毎日朝食後と昼食後にお皿拭きをお願いしている。食事の下準備もお願いすることがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	陽気のいい季節には、毎日外への散歩を行っている。又、お花見や紅葉を見に、複数の利用者様とドライブに行くこともある。	寒い時期は、敷地内で散歩をしたり、長い廊下を歩いていただいたりし、陽気の良い時期は外に散歩に出かけています。年間の行事予定を立て、お花見に出掛けました。気分転換のレクリエーションの充実を図っています。他は花瓶の花の水替え、干し柿や、漬物作りと一緒に楽しみました。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支援していない。個人でお金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	整理整頓と清潔に努め、季節の花や飾りも採り入れている。暖かい時期には共有リビングの畳の畳の上がりで、利用者様とお茶会をすることもある。	共有空間は清潔と適温を保ち、高い天井と上にも窓があり、木材使用が多くて明るい雰囲気です。壁には皆様の作品などが飾られています。鉢植えのグリーン、畳の畳の上がりで、自由に座れるソファなど、寛げる空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールでは、食事やお茶の時間以外は席にこだわらずに、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人やご家族のご意向を大切にしてい、使い慣れたものを活かす工夫をしている。	個室はレイアウトが自由で、十分な広さがあります。ベッドと収納量が多いタンスは施設の備え付けですが、可動出来るので、壁面の利用や窓の位置に合わせて配置できます。家から使い慣れた家具やテレビ、家族の写真や鉢植えなど、落ち着いた居室になっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要に応じて検討し、工夫している。		